

望岳山荘

いって

—中嶋雄雄

一年に近い滞米生活を終えて先月下旬に帰国した私は、東京での忙しい生活が始まる前にせめて墓参りだけは済ませておこうと思っ

て、一晚松本へ帰省した。青空と海ばかりで底抜けに明るい南カリフォルニアから久しぶりに信州へ戻って来ると、大気の肌触りも、草木の香りも、つまり自然の質がごとごとく違って、かの地にはない緻密で微妙な情感に浸ることが出来る。私が教鞭をとっていたカリフォルニア大学サンディエゴ校の国際関係・太平洋研究大学院 (IR/PS) は、アメリカ西海岸で

ももつとも美しい地域として人気のラ・ホーヤ (La Jolla) の丘陵に白亜の殿堂のよう



に建っていて、私はその研究室から紺碧の、そしてときには灰色にくすむ太平洋を毎日眺めていた。そして今、松本郊外のこの山荘から秋色濃い北アルプスの山容を見つ

めていて、そのコントラストにいささか感じ入っている。

と云うで、望岳山荘へのみちすがら、あえて塩尻インターで高速道路を降りた私は、東山山麓線一經由松本へ戻ってきた。松本の町中では見えない穂高連峰を久々に眺めたかったからであり、また、中山靈園脇から遠くに

松本の街を見て神田へ下る山間のルートが松本へのアプローチとして大好きだからでもある。すると、「アルプス展望しののめのみち」と銘打った上品な観光案内板が、私の気付いたかぎりでは高ボッチ西山麓の南内田と牛伏寺川を渡った二本松の

「しののめのみち」の北アルプス

みの名称と標高が正確に表示されていて、全体としてはなかなか良くできている。

しかも喜ばしいことに、槍ヶ岳や常念岳などのよく知られた山だけでなく、視界に映るすべての山々の名前が記されている。南内田地点からは、北穂高岳(三、一〇六)、涸

塚のところまでいけるのを見つけたことができた。案内板の北アの山並みの絵が実際の姿と少し形が違っているのがいささか残念ではあるが、「アルプス展望東山広域観光ルート推進協議会/松本市/塩尻市/四智村/松本地域広域行政事務組合」の手によるこの案内板には、北アの山並

私は昨年の夏、このコラムの「北アの山並みと名称」と題する文章(本紙一九九二年八月十一日付)で、松本

平から見える視界のほぼ三分の一を占める南部の「西山」の存在が意外に気付かれず、それらの山の名前がほとんど無視されていることを記したことがあった。そこには「大滝山の稜線が切れたところを南へ行った前山の奥の平坦な山頂が小嵩沢山なのかもしれない」とも書いて、「これからは、それらの山々の名前も、松本案内などには是非記載してほしいものである」と要望しておいただけに、「しののめのみち」でのこの小さな発見が、私にとってはことのほか嬉しかった。

(東京外語大教授) 松本市出身)